ナシ特報

No. 5

平成 26 年 5 月 30 日
ＪＡ中野市営農センター
ＪＡ中野市ナシ部会

南水の結実は概ね確保されています。これから仕上げ摘果に入りますが、着果量がやや不足している場合は、素質の悪い果実も残し、生産量の確保と樹勢の安定化を図りましょう！

結実後の高温・干ばつにより、ケムシ類・カメムシ類の被害が目立ちますので注意しましょう。また、今回の薬剤散布は梅雨入り前の重要な防除となります。予防効果を前提としていますので、早めの散布をこころがけましょう！（詳しくは下記の内容を参考にしてください。）

◆ 和梨の定期防除（収穫前や収穫中の作物への飛散に十分注意してください。）

散布日：　　月　　日
散布量：　　リットル

✧ 6 月上旬の薬剤散布（前回から 15 日後）

散布時期：6/10～15 頃　＊注意事項①、②、③参照

散布薬剤

水	１００リットル	
展着剤	２０ml	＊注意事項④参照
ロブドー水和剤	１２５ｇ（14 日前、5 回）	
サイアノックス水和剤	１００ｇ（ 7 日前、3 回）	＊注意事項⑤参照

対象病害虫　：黒斑病、黒星病
シンクイムシ類、ハマキムシ類、クワコナカイガラムシ、（カメムシ類）

散布量：10 a 当り　400 リットル

～　注意事項　～　　＊必ずお読みください。

① 袋掛け前の防除とする。また、散布後 1 週間以上を経過した場合は、キノンドーフロアブル 1,000 倍（3 日前、9 回）を特別散布し、袋掛けを行う。

② 梅雨入り前の重要な時期となるので、死角がないように散布量は多めに設定する。また、葉やけ防止のため、涼しい時間帯に散布する。

③ 前回の薬剤散布が遅れた場合や雨や曇天が続く予報が出た場合は、上記の散布時期より前倒しで進めること。

④ 通常展着剤に代えて、固着性展着剤のアビオンＥの 1,000 倍を使用すると薬液付着効果が高まる。

⑤ カメムシ類の被害が散見される場合は、アルバリン顆粒水溶剤 2,000 倍（前日、3 回）を加用する。

次回（6 月中下旬）の散布予定
◆ 有袋：6/25～30（前回 15 日後）
◆ 無袋：6/20～25（前回 10 日後）

◆ 西洋梨の定期防除は裏面をご覧ください。

西洋梨の定期防除（収穫前や収穫中の作物への飛散に十分注意してください。）

主力のラフランスの着果量は概ね確保されていますが、樹によりバラツキがある場合は枝単位で着果量を調整するようにしましょう。

梅雨明けまでは、輪紋病の最重要防除期間です。この期間の薬剤散布は予防効果を前提としていますので、雨が続く前に散布完了するようにしましょう！また、5月下旬からカメムシ類の被害が目立ちます。吸汁被害が多い場合は薬剤を変更する等の対策を講じましょう。（詳しくは下記をお読みください。）

✧ 6月上中旬の薬剤散布（前回から15日後）

散布日：　　月　　日

散布量：　　リットル

散布時期	6/5～10頃　＊注意事項①、②、③参照
散布薬剤	水　１００ℓ当り 展着剤　１０mℓ ダーズバンＤＦ　３３g（21日前、3回）　＊注意事項④、⑤参照 オキシラン水和剤　２００g（3日前、9回）　＊注意事項⑥参照
対象病害虫	輪紋病、シンクイムシ類、ハマキムシ類、クワコナカイガラムシ、（腐らん病）
散布量	10a当り　500リットル
注意事項	① 袋かけ前に降雨があった場合は、オキシラン水和剤500倍(3日前、9回)を再度散布してから袋かけを行なう。 ② 梅雨入り前の重要な時期となるので、死角がないように散布量は多めに設定する。また、葉やけ防止のため、涼しい時間帯に散布する。 ③ 前回の薬剤散布が遅れた場合や雨や曇天が続く予報が出た場合は、上記の散布時期より前倒しで進めること。 ④ ダーズバンDFは医薬用外劇物です。購入の際は印鑑を持参してください。 ⑤ カメムシ類の発生園は、ダーズバンDFに代えてアルバリン顆粒水溶剤の2,000倍（前日、3回）を使用する。 ⑥ 有機銅成分を含む薬剤（オキシラン水和剤やキノンドーフロアブル等）の使用回数は合計で9回以内であるので注意すること。

次回（6月中下旬）の散布予定
◆ 6/20～25（前回15日後）

◆ 和梨・西洋梨の仕上げ摘果のポイントはナシ部会通信No2をお読みください。